

地方小規模病院における大腸癌手術の現状 (過去10年間の遡及的症例解析)

まつ ぼら たけし せ しも たつ ゆき
松 原 毅 瀬 下 達 之
た ぼら ひで き
田 原 英 樹

キーワード：大腸癌手術，小規模病院，low volume center

要 旨

出雲市斐川町は人口3万に満たない町であり，東西には High-Volume Center である「がん診療連携拠点病院」が複数施設存在している。地方の小規模病院である当院は Low-Volume Center として悪性腫瘍に対する手術加療を施行してきた。今回，地方小規模病院での大腸癌外科治療の現状を明らかにすることを目的に，過去10年間に当院で手術加療を施行した大腸癌症例121例を患者背景，短期，長期成績を中心に遡及的に検討した。CD 分類 Grade 2 以上の早期合併症発生割合は Grade 2/3a/3b それぞれ 23/6/3 例であり，観察期間中の術後早期の手術死亡症例，在院死は認められなかった。また5年全生存率/5年疾患特異的生率/5年無再生存率はそれぞれ67.6%/78.1%/76.7%であり High volume center と比し遜色無いと考えられた。治療チームのスキル，知識の向上などにより low volume center においても大腸癌手術は安全に施行可能であると考えられた。

はじめに

当院の位置する出雲市斐川町は人口3万に満たない地方の行政町であり，東西には大学病院などいわゆる High-Volume Center である「がん診療連携拠点病院」が複数施設存在している。当院は平成18年に開院した慢性期病棟，療養病棟を有する病床数200以下の地方の小規模病院であるが

Low-Volume Center として悪性腫瘍に対する手術加療を施行してきた(図1)。

今回，われわれは地方の小規模病院での大腸癌に対する外科治療の現状を明らかにすることを目的に，当院における大腸癌手術症例の短期及び長期成績を遡及的に検討した。

対 象

平成20年1月から平成30年8月までに当院で手術加療(姑息的手術を含む)を施行した大腸癌症例121例を対象とした。

Takeshi MATSUBARA et al.

出雲徳洲会病院外科

連絡先：〒699-0631 出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院外科